

つばき公園

つばき公園の思い出

大津 由佳里

私は、1970年（昭和45年）5月末、前沢四丁目に転居してきました。当時の前沢は鬱蒼とした雑木林が多く、新しく出来た遊歩道と区画整理された土地、そこにポツポツと建てられた新築の家屋がある、緑ばかりの場所でした。

我が家はつばき公園に隣接していることもあり、つばき公園と共に育ってきたといっても過言ではないと思います。

今でこそつばき公園は、椿の木は勿論のこと、大きな木を中心に様々な樹木が大きな枝を広げていますが、当初は背の高い、ヒョロッとした松の木が何本か生えていて、柵の周りには小さな椿の木が植えられているばかりでした。そこに、ブランコと砂場とジャングルジム、滑り台があったのですが、当時の滑り台はコンクリート製だったので、私が小学生の頃はズボンやパンツを破いて帰って、よく母に叱られたものでした。

そして、夏は毎晩のように網戸にカブト虫やクワガタ虫が沢山張り付いていて、取り放題だったのを思い出します。現在ガソリンスタンドがある一帯と、その向かい側一帯は雑木林だったので、夏場は昆虫採集の宝庫でした。近頃姿を見せなくなったカナヘビも沢山いて、我が家ではカナヘビを10匹くらい飼っていました。

そんな環境だった当時から45年が過ぎました。

今でも同じ場所に暮らしており、時の移り変わりと共に環境の変化も感じていますが、過去も現在も住民に愛されている公園であることは変わりないとしみじみ思います。



昭和44年、つばき公園を望む。2本松と滑り台がある。
左奥に小林宅が見える。



コンクリートの滑り台